



# うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

第13号

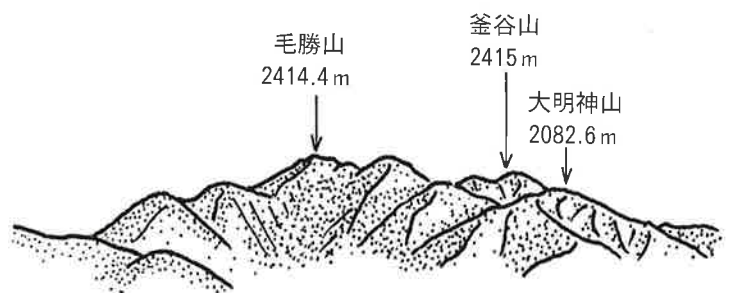
発行日：平成12年9月30日  
編集発行：魚津埋没林博物館  
印刷：魚津印刷(株)

## 日本一高い!?



写真は、魚津市の最高峰、毛勝山群です。一番高いのは、右側に見える釜谷山。次いで、左に2つのピークが並んで見える毛勝山。いずれも標高は2400mあまり。釜谷山の右手前に重なって見えるのが大明神山（2082.6m）。

え、日本一？魚津一の間違いでは？そのタネ明かしは、本文の中で。





## 富山県のスギ・魚津市のスギ

学芸員 石須 秀知

「スギ」と聞いて、いやな顔をする人は多いでしょう。花粉症の人にとっては耐えられない存在とも言えるスギ。でも、ちょっとだけ我慢して、スギの世界に少し踏み込んでみませんか？

そこには、実に興味深い世界が待っています。

富山県は、県の木に「タテヤマスギ」を指定しています。タテヤマスギというのは、富山県の東部、立山



県木タテヤマスギ

連峰の標高500~1000m付近を中心に広く自生しているスギです。このタテヤマスギのように、その土地に昔から根づき親しまれてきたスギには、アキタスギ、ヤクスギなどそれぞれ名前がつけられ、地方品種などと呼ばれています。さらに、木材の特質や生長の速さ、積雪への耐性、地域特有の育林技術に対する適応性など林業の見地からも多くの栽培品種が区別されています。これらの品種を合計すると、200~300種類にも達するといわれています。しかし、植物分類学の上では、そのすべてが「スギ」1種にまとめ



さまざまな品種が育成される富山県林業試験場見本林

られます。日本海側に分布するスギを変種アシウスギとして分ける見解もあります。富山県に自然分布しているスギは、すべてアシウスギの系統に含まれます。

アシウスギは、雪の重みなどで下枝が地面につくとそこから根を出し、やがて独立した木になる「伏条」という性質が強いといわれます。実際、県内の山間部



伏条

で自然に生えたスギを観察すると、普通に種子から育ったもののほかに、この伏条によって育ったものもよく見られます。また、国の天然記念物に指定されている入善町の「杉沢の沢スギ」では、かつて人がこの伏条の性質を利用し、枝に重石をのせて発根させ、新しい木を育てたあとが観察できます。

この杉沢の沢スギは、海岸から100mほどしか離れていない、標高およそ5メートルの場所に生育しています。林の中に黒部川の伏流水が湧き出し、山地の植物と暖地の植物が共存して



杉沢の沢スギ

いる珍しい林です。スギの生育地としても、標高が低く海岸に近いこの林は特異なものと言えます。

このように特徴ある富山県のスギの中で、とりわけ魚津市には、全国的にも注目すべきものがいくつも残されています。

一つは魚津埋没林です。昭和5年に魚津市の海岸から大量に出土し、国の特別天然記念物に指定された魚津埋没林は、約2000年前のスギの原生林跡です。先に述べた沢スギに似た環境で、樹齢500年以上に達する巨木が立ち並んでいたことが分かっています。そのスギ原生林が、河川の氾濫や温暖化による海面上昇などの環境変化によって海面下の地中に没してしまったのです。

また、魚津市を流れる片貝川上流の標高600m付近には、洞杉と呼ばれるスギ巨木群が生育しています。老木で幹の内部に空洞ができたものが多いことから洞杉と呼ばれているようです。



洞杉

そのほとんどは急斜面に露出した巨岩を抱きかかえるように生え、異様な形をしています。計測されたもっとも大きなものは、幹の周囲が15mを超え、樹齢500年以上と推定されます。岩の上は他の樹木との競争が少なく、積雪も早くとけるなど、スギの生育に適していたと思われる。

さらに、日本一高いところに生えたスギが魚津市にあります。大明神山(2082.6m)という山の頂上近く、2070mで確認されたものがそれです。そのほか毛勝山、猫又山などにも、標高2000mを超える場所でスギが生育しています。富山県周辺では、標高500~1000m付近がスギ

の生育に適しています。そして、標高1600mを超えるところでは、スギは種子で繁殖することができません。では、2000mを超える場所に、なぜスギが生えているのでしょうか。現在、地球の温暖化が大きな問題として取り上げられています。しかし、何千年、何万年という尺度で



標高2000mを超えるスギ生育地  
(新潟大学大学院平英彰教授提供)

過去を振り返ると、地球は温暖化と寒冷化を繰り返しています。約1万年前に最後の氷河期が終わったあと、約5000年前には現在より温暖な時期があったことが明らかになっています。その温暖期に山の上へ分布を広げたスギの子孫が生き残っているのです。温暖期が終わって寒冷化し、種子による繁殖ができない環境に変わった後も、伏条などによってかろうじて子孫を残すことができたと考えられています。

温暖化で高地に進出し、寒冷化によって取り残されつつ生き残ったスギ。過酷な環境変化によって滅び、埋没林になってしまったスギ。その間で、生育に適した環境に根をおろし、巨木となり、新しい子孫を生み出しているスギ。富山県で、あるいは魚津市で見られるさまざまなスギを通して、過去から現在、そして未来へと続く生命の流れが見えてくるように思われます。

魚津埋没林博物館では、平成12年8月16日から10月31日まで、企画展「富山県のスギ」を開催しました。この企画展では、スギについて新潟大学大学院教授、平英彰博士に一部ご指導いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



## シリーズ

## 埋没林の仲間たち ⑫

## グミ類 (グミ科)

赤くおいしそうなお実がなるグミの仲間には、アキグミ、ナツグミ、トウグミ、ツルグミなどがあります。中でもアキグミは河川敷などに群生し、大量の実をつけます。ほかのグミの仲間の多くは初夏に実が熟しますが、アキグミは名前どおり秋に熟します。アキグミの実は、渋み



アキグミの果実

がありますが生で食べられ、ジャムや果実酒などにも利用されます。

アキグミは、定期的に土砂が流されて植生が破壊されるような荒廃した土地を好みます。そ



トウグミの花

のため、急流河川の多い富山県はアキグミの一大産地になっています。特に常願寺川では、アキグミの純木が広い面積にわたって見られます。

魚津市でも片貝川、早月川の河川敷にアキグミがたくさん生えています。そのほかナツグミ、トウグミ、ツルグミなどが山間部にまれに見られます。

魚津埋没林では、1989年の発掘調査でグミ科の花粉が検出されています。花粉から種類までは特定できませんが、環境を考えればおそらくアキグミではないかと思われます。

## お知らせ

## 平成13年3月までの行事予定

## ☆企画展示

12月1日～12月28日

魚津の美しい自然と祭写真コンテスト作品展

1月2日～3月31日

魚津ナチュラルギャラリー

## ☆ふれあい学習会

10月28日(土) 野山を歩き、つるでつくる

11月11日(土) 紅葉を見て残す

## ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時 (入館は4時30分まで)
- 休館日 12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始(4月～11月無休)
- 入館料 ・大人(高校生以上)…510円 ・小中学生…250円
- 交通 ・JR北陸本線 魚津駅 } 下車1.5km [タクシー…5分]
- ・富山地方鉄道 新魚津駅 } 徒歩…25分
- ・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分

## 特別天然記念物 魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814 ☎(0765)22-1049  
 ホームページ <http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>  
 e-mail [nekkolnd@city.uozu.toyama.jp](mailto:nekkolnd@city.uozu.toyama.jp)

